

鳥取初の木造4階建て

日ノ丸産業



純木造で4階建てに挑戦

4、長さ1万1275ミリ。部材が大きい
ため、施工時の仮置きなどに広いスペースが必要だが、施工が速いのがメリットという。
国産材カラ松の大断面集成材を合わせた木材使用量は428立方

本社事務所の建設進む

石油・ガス関連製品や家電、内・外装建材、リフォーム、自動車関連事業、観光業と幅広く事業を展開する日ノ丸産業（鳥取市、森下明男社長）は、CLTを使った木造で老朽化した本社社屋の建て替え工事を行っている。

鳥取県の県産材・林産振興課主催で15日に行われた構造見学会には、定員30人ずつ2部に分かれて計60人が参加。鳥取市内の現場1階に設けられた会場で建物の説明を聞いた。建築中の建物は、木造軸組構造でCLTを

用いた木造4階建てと屋上階段室からなり、延べ床面積は1481・06平方メートル。床と屋根スラブに杉を使った5層7プライのCLTを計268・8立方メートル（加工後）使用。最も大きなCLTパネルは厚さ210、幅217

4、長さ1万1275ミリ。部材が大きいため、施工時の仮置きなどに広いスペースが必要だが、施工が速いのがメリットという。国産材カラ松の大断面集成材を合わせた木材使用量は428立方

材。軸組は3330ミリの柱と、同幅で最大梁1100ミリの梁せいの梁を組み合わせて構成。SMB建材（東京都）の木造建築部が手掛けるサミットHRI工法で、柱と梁の接合部には鉄筋と樹脂で固定するGIR接合を用いた2方向ラーメンになる。CLT同士の接合には構造用合板を介してビス留めするスプレイン接合を用いた。鳥取県内初という純木

造による4階建ては、日本建築センターの個別評定を受けることで実現した。ハウジング事業を担当する村田憲昭日ノ丸産業常務執行役員は「鳥取県の林業発展の一助になればとの思いで、木造での建て替えを決めた。中・高層木造のモデルとして見学も受け入れたい」と木造化の意図を語った。森本智史鳥取県森林・林業振興局長は「話題のCLTを4階建てに使った先駆的な建築。欧米で進むCLTの普及が日本で遅れているのは施工事例が少なく、情報が少ないのも一因だろう。全国に9カ所しかない工場が鳥取にある。CLTを含めてJAS品の普及を支援したい」とCLTへの期待を示した。建物は、設計が白兔設計（鳥取市）、施工は大和建設（同）が担当。大断面集成材は藤寿産業（福島県郡山市）が、CLTは銘建工業（岡山県真庭市）が製造した。